

CDI 中国「大健康」月報

(第 19 号: 2025 年 1 月 21 日~2025 年 2 月 20 日)

中国における「大健康」産業とは、医療を中核として、健康食品・サプリメントや健康診断・生活指導から、リハビリ、高齢者向け商品・サービス、スポーツ・レジャーまで、生老病死に関わる広範な領域を対象にした概念を指す。CDI 中国「大健康」月報では、「大健康」産業における日本・中国間の交流促進に資する情報を毎月提供していく。一助となれば幸いである。

トップニュース: 値段交渉について

国家医療保険局、上海で集中的購入薬品の効果に関するフィードバックを収集

2025 年 1 月、専門家から「血圧が下がらない」「麻酔薬が効かない」「下剤が効かない」といった品質リスクの問題が指摘され、社会的に注目を集めた。国家医療保険局は迅速に行動し、上海に赴いて、複数の病院の専門家や医療スタッフの意見を聴取し、データを収集した。

調査結果によると、「降圧薬が効かない」ということについては個人の体感の範疇であり、瑞金病院の研究では、ジェネリック薬とオリジナル薬の降圧効果と安全性に大差はないとされている。また、「麻酔薬が効かない」ということについては、麻酔薬の使用量に集中的購入前後に大きな変化はなく、瑞金病院の研究では、プロポフォール注射液において、麻酔の過程でジェネリック薬とオリジナル薬の使用量に統計的な差はなかったが、誘導期間ではジェネリック薬の使用量がわずかに増加しているものの、さらなる研究が必要だとされている。最後に、「下剤が効かない」ということについては、該当薬品はまだ集中的購入には組み込まれていないため、病院からのフィードバックはないとのことである。また、ジェネリック薬の一致性評価や病院のオリジナル薬使用方針、集中的購入薬品のコストと品質管理についても紹介されている。

国家医療保険局、2025 年に全国における連盟集中購買を 20 件実施予定

2025 年、医療保険部門は薬品や医療消耗品の集中的購入を引き続き推進し、国家レベルでは上半期に第 11 回薬品集中的購入を実施し、下半期には第 6 回高値消耗品の集中的購入を行い、新たな薬品集中的購入を適宜開始する予定である。地方レベルでは、約 20 件の専門性を持った全国アライアンス購入が実施され、中成薬や中薬飲片、高値消耗品などを対象とする予定である。年間で集中的購入薬品の品目数は 700 点に達すると予想されている。また、全国薬品価格一覧表の作成や信用評価制度の強化、医療サービス価格項目立案ガイドラインの改訂などが進められ、医療業界の健全な発展と国民の健康保障を目指している。

低価格医療消耗材の集中購買

国家レベルでは、第 5 回目の消耗材国産集中選定が人工内耳および末梢血管ステント類消耗材を対象に行われる予定で、2025 年 3 月 3 日前後には人工内耳の選定結果が発表され、5 月には末梢血管介入消耗材の選定結果が発表される予定である。また、地方レベルでは、複数の省が異なる消耗材の集中的購入を主導しており、例えば甘肅省は 24 の省で末梢血管介入の集中的購入を実施し、1 月 17 日に選定結果を

発表した。製品の平均価格は62.21%の値下げがなされている。河北省は27の省で血管介入の集中的購入を主導しており、選定予定結果が公示されている。浙江省は乳房旋切針のアライアンス集中的購入を主導しており、製品の平均価格が大幅に低下しており、選定結果は2025年上半期に発表される予定である。

医療分野における統制・コンプライアンス強化

一部の地域では、衛生健康委員会と医療保険局を統合

河北省黄驊市は衛生健康委員会と医療保険局を統合し、「滄州渤海新区黄驊市衛生健康と医療保障局」を設立する。衛生健康委員会は医療機関の建設や公共衛生などのサービスを担当し、医療保険局は医療保険基金の管理を担っている。

二つの機関を統合することにより、医療体系内の役割分担の不調和状態を解決し、政策実行の効率を高め、健康管理や疾病予防の業務を強化し、医療監督能力を向上させることを目的としている。ただし、権力の集中や監督機構の欠如といった潜在的なリスクも存在する。この統合は三明の医療改革目標と一致しているが、手法自体はより積極的であり、将来的に全国展開されるかは各地域の状況に依存する。経済的に発展していない地域と発展している地域では、異なる選択がなされる可能性がある。

病院管理

民間医療市場のトレンド

中国の医療市場は二つの方向性に分かれつつあり、公立病院は基本的な医療ニーズを保障し、民間病院は特需・高消費・高端ニーズを満たしている。2024年末までに、民間病院の割合は60%を超えると予想されるが、市場シェア・診療量は比較的少なく、地域によって発展状況に差がある。北京市や江蘇省などでは民間病院の発展が良好だが、西部や東北地域では相対的に遅れている。

三級甲等病院が医療機器の交換について、1.8億元の大規模発注

湖北省政府調達サイトによると、襄陽市中心病院は1.8億元以上を投入し、磁気共鳴画像システム(MRI)やデジタルX線撮影機器など28種類の医療機器を新旧交換する計画を発表した。この措置は、医療機器更新政策に応じたものであり、2025年に医療機器更新が全面的に実施される背景の中で、大量の機器調達需要を生み出し、販売業者にとっては商機となる。

浙江省初の重粒子医学センター、正式に稼働開始

浙江省癌症病院の重粒子医学センターが2025年2月13日に正式に稼働した。これは浙江省初、全国でも唯一、病院の本院区内に建設された重粒子医学センターで、総投資額は約115億元。このセンターは中国科学院近代物理研究所が自主開発した重粒子治療装置を備えており、重粒子治療は放射線治療の最先端技術で、位置精度が高く、治療効果も良好で、健康な組織へのダメージが少ないという利点がある。国内では現在まで、上海、蘭州、武威などで重粒子治療が実施されている。

医薬品

中薬の革新薬の売上は化学薬品の 1 割以下

政策が中薬の革新を支援しているにもかかわらず、2016-2024 年に承認された 29 種類の中薬新薬(うち 27 種類が医療保険に加入)の商業化には限界がある。億を超える売上を記録したのは 2 つの品目(金花清感顆粒、連花清咳片)だけで、同期間中における化学薬品トップ 10 品目の売上は 14 億元に達しているが、中薬の革新薬の全体売上はその 1 割にも満たない。理由は以下の通り:

- 市場投入のタイミングが悪い:多くの製品が 2019-2021 年に発売され、コロナの影響で病院での販促活動が制限された
- 集中購買の影響:例えば、桑枝生物アルカロイド錠が西薬のバイタルピンと比較され、後者が集中的購入により 90%価格が急落し、市場スペースが圧迫された
- 効果の認知度の低さ:中薬の多様な作用メカニズムは単一評価システムでは確認が難しく、医師の受け入れには時間がかかる
- 競争が激化:伝統的分野(補腎、風湿など)で新製品に差別化が欠けており、老舗企業の地位を揺るがすことが難しい;専門家は、「西薬で解決できない問題は中医で解決できる」という分野(例:黄斑変性、婦人科)に焦点を合わせ、市場と連携して革新を進めるべきだと提案している

イノベーション医薬品の研究開発と上市進展

国内で承認または承認が期待される創薬

- 倍捷楽(ビキチュウマブ):世界初の IL-17A/F 二重標的抑制剤で、強直性脊柱炎および nr-axSpA に使用され、中国の複数の地域で初の処方が行われ、患者の生存期間が著しく延長された(中位総生存期間 31.5 か月 vs 伝統的 化学療法 16.1 か月)
- 怡諾軽(GLP-1 受容体作動薬):上海銀諾医薬が開発し、半減期 204 時間(セマグルチドの 168 時間より優れ、週 1 回注射で、降糖、減量、心血管疾患に役立つ)、輸入薬市場に挑戦
- 備思復(ウエントユマブ):膀胱癌治療において、臨床試験で疾病進行リスクを 55%減少させることが示された。海南省の樂城先行区を通じて資格取得を加速

外資系製薬企業の動向

- ジョンソン・エンド・ジョンソンの新しい二重抗体薬:肺癌に対する新薬が中国で承認され、腫瘍領域の強化が図られている(具体的なデータは公開されていないが、PD-1/PD-L1 市場をターゲットと推測)
- GSK の抗体創薬:月 1 回皮下注射での適応症申請が行われ、患者のアドヒアランス(服薬遵守)の向上が期待されている(具体的な適応症は未公表)
- PD-1 市場の同質化競争:国内で既に 15 種類の PD-(L)1 薬が上市されており、2023 年の TOP10 売上のうち 4 席を占めているが、類似薬集中により競争が激化している

アストラゼネカ 2024 年決算：中国市場 64 億ドル、ダグリグリフロジン 77 億ドル、オシメルチニブ 66 億ドル

アストラゼネカは 2024 年、グローバル売上高が 540.73 億ドル、前年比 21%の増加を記録し、そのうち中国市場は 64.13 億ドル(12%)を占め、過去最高を達成した。主力製品であるダグリグリフロジン(Farxiga)の売上は 77.17 億ドル、31%の増加を見せ、世界で最も売れた薬となった。また、オシメルチニブ(Tagrisso)の売上は 65.80 億ドルで、16%の増加を記録した。中国市場では第 4 四半期に売上が前年同期比で 3%減少したが(呼吸器薬の需要減少による)、年間では 11%の成長を維持。また、2030 年までに売上高 800 億ドルを目指し、ADC や遺伝子治療分野への研究開発投資を強化する予定。

医療機器

Mindray、聖湘、安図など 74 種類の IVD 新製品が承認上市

2024 年、中国の IVD 業界は製品の爆発的な成長期を迎え、Mindray、聖湘生物、安図生物などの企業が 74 種類の新製品を承認し、分子診断、化学発光、POCT(即時診断)などの分野をカバーしている。Mindray はグローバルな展開により第 1 四半期の売上が 57 億元を超え、5 億元の研究開発投資を行い、技術革新を推進している。聖湘生物は分子 POCT 製品で呼吸器疾患市場を獲得し、「遺伝子技術普及」戦略を通じて輸入製品の独占を打破。安図生物は全自動化学発光プラットフォームに注力し、産業チェーンの統合を強化している。業界のトレンドとしては、国産製品の代替が加速し、企業は精緻な管理と全産業チェーンの運営を通じて競争力を高めている。

BD がライフサイエンス部門を分離、評価額 330 億ドル超

BD(ビーディー)はライフサイエンスと診断業務を分割し、独立した会社を設立して高成長分野(例えば、フローサイトメーターや分子診断)に特化することを発表した。分割後、BD は従来の医療機器(注射器や感染防止製品など)に注力し、株主価値を向上させるために資本の最適化を図る。これは業界の分割トレンドを反映しており、企業が市場競争に対応するために事業に焦点を当てている。

Mindray 医療のグローバル第二本社の稼働と海外買収

Mindray 医療は、武漢にあるグローバル第二本社基地を全面的に稼働させ、研究開発・製造・訓練機能を統合し、モニタリング機器や超音波などの核心製品ラインの拡張をサポートしている。

国産内視鏡大手がヨーロッパ企業を買収し、光学イメージングと AI 支援診断技術を獲得、ハイエンド内視鏡の国産化を加速している。この動きは、中国の医療機器企業がグローバル展開を通じて技術の壁を高めていることを示している。

カールツァイス上海本社の建設

カールツァイスは上海に地域本社を設立するために 6 億元を投資し、中国市場での現地開発と生産を強化している。

健康食品・サプリメント

薬食同源が、日本市場で注目を浴びている

伝統的な中国薬草（例えば、クコ、茯苓、山薬）は日本で「機能性表示食品」として人気があり、現代の技術で有効成分を抽出し、抗疲労や抗酸化などの効果を打ち出している。日本の消費者が天然成分を好む傾向が市場の成長を促進しており、中国企業はクロスボーダーでの協力を通じて標準化された製品を輸出し、文化的な認識を活かして海外市場を拡大している。政策面では、日中両国の健康産業が補完的になり、「薬食同源」の国際化に向けた機会を提供している。

『特殊医学用途全栄養配合食品登録ガイドライン』の発表

国家市場監督管理総局は、新たな規制において全栄養配合食品の登録要件を明確にし、原材料の安全性、製造プロセスの科学性、臨床試験の有効性に関する審査を強化した。この政策は市場の規範化を促進し、糖尿病や腎疾患などの特定の疾患向けの医療食品の研究開発を奨励し、特殊な群体の栄養ニーズを確保することを目的としている。企業は技術的な準備とコンプライアンス管理を強化し、規制の強化による業界再編に対応する必要がある。

デジタル医療分野

平安好医生、DeepSeek を導入、医療 AI が価値解放を助ける可能性

平安健康（平安好医生）は最近、国産の汎用大規模 AI モデル DeepSeek の導入と一部シナリオアプリケーションの検証を完了し、同社独自の AI システム（例えば、「平安医博通」、「平安医家人」）と組み合わせることで、健康相談や疾病診断の精度を大幅に向上させ、医療データ分析や患者管理の効率も最適化した。この AI 補助診療システムは、診断精度が 99% を超え、診療支援の精度が 95% を超えている。DeepSeek の推論能力を活用することで、重症患者のリスク評価が迅速に（30 秒以内で、精度が 42% 向上）行われ、モデルの調整コストも削減された。さらに、平安健康の株価は、技術力の強化とグループの統合による支援で連日大幅に上昇し、一日の最大上昇率は 17.95% に達した。今後、AI と医療の深い融合が業界をよりインテリジェントでパーソナライズされた方向へ進展させ、例えば家庭医サービスの効率が 30% 向上することが期待されている。

AI+医師の警告：楽普心安宝でリアルタイムに患者を守る

楽普医療の「心安宝」（左側の画像をご参照）動的な心電図記録装置は、AI 技術を用いて医療用レベルの心臓モニタリングを実現し、患者が発症した室性頻拍や室性



細動といった致命的な不整脈を事前に警告し、医療スタッフと連携して速やかに救命処置を行った。この装置はリアルタイムの心電波形表示、AI によるスマート分析（精度 99.97%、17 種類の異常を識別）および医師による遠隔診断をサポートし、家庭での健康管理にも対応している。軽量（28 グラム）で多導出テスト方式を採用し、クラウドデータ同期を通じて心血管疾患の早期発見効率を大幅に向上させ、死亡率の低減に貢献

する。この技術は、病院内外での心電図モニタリングと医療連携ネットワークの統合において重要な価値を持っている。

養老産業(シルバー産業や介護)

[シニア層消費需要動向調査報告書\(2024年\)発表へ](#)

黒蟻資本が発表した報告書によると、高齢者の消費重心は「単に寿命を延伸すること」から「生活の質にこだわること」に移行しており、健康管理(スマートウェアラブル機器など)、文化・エンターテインメント・社交(オンライン教育、旅行)や適老化住宅への需要が顕著に増加している。一線都市の高齢者はAI介護サービスなどのスマートサービスに関心が高く、地方都市ではコストパフォーマンスの高い地域密着型高齢者向けサービスが好まれている。世代間の違いが明確で、70代後半の「新しい高齢者」層はデジタル技術を受け入れる姿勢が強く、シニア市場の多様化を加速している。

[上海市高齢者介護施設の品質向上三年計画\(2025-2027年\)、発表へ](#)

上海は、施設のハードウェア改造(バリアフリー設備、スマート機器の全面的な導入)、サービスの標準化(介護員の訓練・認証)、およびスマート管理(ビッグデータ監視プラットフォーム)を通じて、高齢者介護施設の品質を向上させることを計画している。重点的に「15分介護サービス圏」の構築を進め、医療・家政リソースの統合と「時間銀行」互助介護モデルの試行も行う予定。目標として、2027年までに上海市内の介護施設の星級評価基準を90%以上達成することを掲げている。

以上

日本語校閲: 深谷 俊介(CDI)

お問い合わせ先:

■ 嚴 偉 (CDI 上海オフィス)

□ Email: yan@cdi-china.com

Mobile: +86-183-2198-1922

■ 崔 浩 (CDI 上海オフィス)

□ Email: hao.cui@cdi-china.com

Mobile: +86-188-1736-2183

コーポレートディレクション 上海オフィス

コーポレートディレクション(CDI)は、1986年に米系コンサルティングファームBCGから10名が独立して設立した、日本初の独立系戦略コンサルティングファーム。2008年上海オフィス設立を皮切りに、現在ではアジア5箇所に現地拠点を有する。

上海オフィスでは、主に日本企業の中国参入戦略立案、戦略再構築、及び実行に伴う組織業務改革、中国企業との提携支援等を提供。一方で、中国企業をクライアントとした日系企業との提携支援も行っている。